



各地で観測史上最も暑いと言われた8月に続き、9月に入っても厳しい残暑が続いていますが、最低気温は25度を下回る日が増えて朝晩は少し過ごしやすくなりました。そんな中、森の生きものの様子を観察すると秋を感じさせる姿があちこちで見られ、着実に季節が移っているのを実感しました。

カエル池でナマズを見たという情報があり、みんなで探してみましたがこの日はその姿を見ることはできませんでした。オオオナモミを見に行くと、すでに花が終わって実がたくさんつき始めていました。その葉にとまっているハスジカツオゾウムシが2頭見つかりました。同じキク科のヨモギでも採れるそうです。

カエル池のナマズを探す



オオオナモミの若い実



ハスジカツオゾウムシ

ナガコガネグモのメスが網の真ん中で大きく育っていました。中道沿いのアベマキの根元の樹液にチャイロスズメバチがやってきていました。水路のミソハギの花ではクロマダラソテツシジミが吸蜜していました。



ナガコガネグモ



チャイロスズメバチ



クロマダラソテツシジミ

水路の石にとまったバッタを撮った写真を拡大すると体側に棘状の突起があり、トゲヒシバッタとわかりました。ヒメクグは水辺でよく見かけますが、この日は花が咲いていました。つどいの丘でキリの房状の実を見ました。この種の数を数えたことのある参加者がいて、その膨大な数字を聞いてみんな驚いていました。



トゲヒシバッタ



ヒメクグ



キリの実

エノキの葉に灯火採集にもよく来るキナミシロヒメシャクがとまっていた。そのエノキの葉にエノキハトガリタマフシという特徴的な形状の虫こぶがたくさん見られました。そばのムクノキは、葉の形やきつき方がエノキによく似ていましたが、手触りは大きく違い、ムクノキの葉は表も裏もザラザラしていました。



キナミシロヒメシャク



エノキハトガリタマフシ



ムクノキの葉



毎年9月はイネ科の植物を観察のテーマの一つに挙げています。この日もシマスズメノヒエ、キンエノコロ、アキノエノコログサ、タチスズメノヒエ、メヒシバ、カゼクサなどに行く先々で観察しました。



シマスズメノヒエ



キンエノコロ



アキノエノコログサ

参加者の一人がススキの葉を使った子どもの頃の遊びを紹介していました。コツをつかむとうまく飛ばせるようになりました。大きなツチイナゴがすぐそばにとまっていたので大きさを測ってみると標準的なサイズでした。足元の紫色の花はヤブランとのことでした。園芸品種としても人気があるようです。



ススキ矢飛ばし



ツチイナゴ



ヤブラン

エノキのところではアカボシゴマダラの卵や幼虫を探していると、カナヘビの抜け殻が見つかりました。カキノキの実はまだ赤く熟し始めていましたが、マメガキの方はまだ青い実ばかりでした。小さな白い花を咲かせたマメアサガオを観察しました。よく似たホシアサガオとは花の中心の色で見分けるそうです。



カナヘビの抜け殻



マメガキ



マメアサガオ

最後にガガイモの花を見に行くのとたくさん咲いていました。足元のキンミズヒキも花が咲いて中には実になり始めているものもありました。まだカギが柔らかくひつつきむしにはなりません。振り返りの場で、トンボに詳しい少年から旅するトンボ、ウスバキトンボについての説明を聞きました。



ガガイモの花



キンミズヒキ



ウスバキトンボ

平和公園での観察項目(観察順): ドロバチの巣,カエル池,ミソハギ,ベニシジミ,モンキチョウ,シオカラトンボ,ヤマトシジミ,ハチの仲間,オオオナモミ,ハスジカツオゾウムシ,ワカバグモ,オオブタクサ,カナヘビ,サワフタギ,チャイロスズメバチ,ルリタテハ,オオスズメバチ,ママコノシリヌグイ,カタバミ,キツネノマゴ,ツユクサ,エンマコオロギ,クロマダラソテツシジミ,タチスズメノヒエ,シマスズメノヒエ,キンエノコロ,メヒシバ,ヒメクグ,トゲヒシバツタ,カメノコハムシ,キリの実,アブラゼミ,エノキ,ムクノキ,アキノエノコログサ,ガマズミ,ミツバアケビ,エビスグサ,ツチイナゴ,ススキ,カキノキ,ヤブラン,ヨメナ,アカボシゴマダラ,ミズヒキ,タラの花,ヒメウラナミジャノメ,カナヘビの抜け殻,イタドリ,マメアサガオ,マユタテアカネ,カゼクサ,ガガイモ,キンミズヒキ,ウスバキトンボ,ツクツクボウシの声